

熱気あふれた

ターミナルケア研究会

奥津紀一

ターミナルケアとはがんや慢性の病氣などで衰弱した患者さんを亡くなるまでお世話することをいいます。



三月十一日足柄上医師会主催のターミナルケア研究会が、開成町、福祉会館で開催された。

予定参加人員四十名のところ七十名の参加を得て活発な意見交換が行われた。

当院よりは司会を担当した院長と看護婦2名が参加した。

(1)基調報告・・・奥津紀一

(奥津医院)

在宅ターミナルケアの意義、すすめ方について。

在宅ケアから在宅ターミナルケアに移行するものが多くなつて来た、在宅でターミナルケアを行うことにより、患者と家族など周囲の者との濃厚なコミュニケーションが可能となり、お互い有意義な時間を持つことができる。

(2)地域医師の立場から

杉森 忠貫

(杉森医院)

在宅ターミナルケアは患者のためには良いが、技術的なことや、精神的ケアなどでむずかしいこともある。

(3)ホスピスの立場から

西立野 研二

(ピースハウス病院)

中井のホスピスへも地元の患者さんの利用がふえて来ている。地域の医療機関と連携を深めてゆきたい。

(4)訪問看護ステーションの立場から

中村 淑

(南足柄市看護ステーション)

開設以来四年目となるが、利用者数が約二倍になった。医師との連携を密にして良いケアを提供してゆきたい。

(5)エイズの一例・・・加藤 佳央

(足柄上病院内科)

(6)エイズ患者を看取つて

村市 美代子

(足柄上病院 看護婦長)

上病院で診療したエイズ患者の例を紹介し、診療に際してむずかしかった点を説明し、精神的なサポートが大切なことを強調した。



(7)医療ソーシャルワーカーの立場から

嶋田 康子

(足柄上病院 MSW)

ターミナルケアは病院で行うより、家庭で行つた方が良い。在宅ターミナルケアをうまく行うためには、病院、診療所など医療機関の連携が大切だ。

(8)フロアからの発言

宮本 一行(足柄上病院内科)、

鍵和田 洋子(足柄上病院栄養士)

足柄上病院にも十床位のターミナルケアベッドを設ける予定がある。食事なども自由にとれる様に考えている。

・大崎 逸朗

(足柄上保健福祉事務所長)

ターミナルケアに家族にも参加してもらおうと患者が亡くなった後の家族の精神的立ち直りに良い影響がある。



討論

・病院や医院の他保健センター、看護ステーションなどがお互いにうまく連携し、良いターミナルケアを行おう。

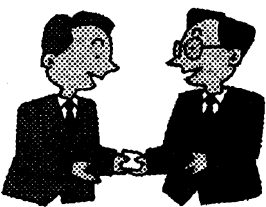
・ターミナルケアを受ける場所を患者さんの状況に応じて、家庭、病院、ホスピスなどに自由に選定できることは良いことだ。

・がんなど悪性疾患のターミナルケアを行う上で、病名が患者さんに知らされていることが大切だが、知らせることがむずかしい場合もある。

・患者さんや家族の精神的な面での配慮が大切。

・携帯電話など利用して、医師や看護婦などのスタッフの連絡を密にする必要がある。

予定時間をオーバーして、熱心な討論が行われた。この問題に対する、当地区の医療関係者の熱意が十分くみとれた。

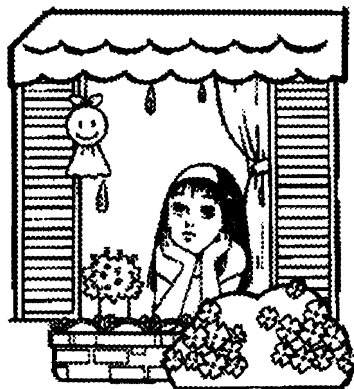


5月・6月の休診日

(日曜・祭日)

水曜・土曜・第一火曜午後)

5月12日(火)午後



みなさんの疑問や投稿を

お待ちしております。

☆受付けからのお願い

月初めには必ず保険証を

受付けにお出し下さい。

診察券は毎回お持ち下さい。